

1. 基本情報

評価対象年度 (令和3 年度)

施策コード	423	施策名	生活環境の保全
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち(「基盤づくり」の分野)	
まちづくりの基本目標	42	豊かな自然と調和した環境にやさしいまち	
主担当部	市民環境部	主担当課	環境課

2. 施策の方向

10年後の姿	誰もが環境保全に関する知識を持ち、省エネルギーの取り組みや再生可能エネルギーの利用が促進されており、環境にやさしい社会がつけられています。		
施策の方向性	1	省エネルギー活動や再生可能エネルギーの普及を促進します	
	2	大気汚染・有害化学物質・騒音などの公害から生活環境を守ります	
	3	環境に対する問題意識を啓発するため、情報や学習の場を提供します	

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和3年度決算額
車両管理事業	1	総務課 未来創造課 環境課	9,264
飼い主のいない猫対策事業	2	環境課	71
環境保全啓発事業	1、2、3	環境課	4,742
総事業費(施策の合計)			14,077

4. まちづくり指標

指標情報				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度	令和7年度		
①	名称	市の事務事業における温室効果ガスの排出量(CO2排出量)削減率		目標値	15.0	15.2	20.0	25.9	28.6	
	説明	平成27年度排出量を基準として5年間で目標値達成を目指す	単位 %	実績値	23.1	23.1(※1)				
	抽出方法	所管課統計		達成率	154.0%	152.0%				
②	名称	日頃から地域環境に配慮している人の割合		目標値	70.0	70.0	70.0	78.6	80.0	
	説明	—		単位 %	実績値	76.5	76.5(※2)			
	抽出方法	市政世論調査(令和2、5、8年度実施)		達成率	109.3%	109.3%				

※1 令和2年度実績値である。
 ※2 ②抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価(令和3年度実績に対する)

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果(「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」)に対する評価	総合評価(成果、投入財源等を総合的に評価) 維持	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり指標の実績値が、目標値を達成している。 ●温室効果ガスの排出量は、市が所有する施設で使用する電力の供給先の見直しなどにより削減することができた。 ●市役所の事務事業における温暖化対策を定める清瀬市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を改訂し、第二次清瀬市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)を策定した。 ●環境保全への配慮を啓発する取組として実施している「きよせの環境・川まつり」の現地開催については、令和2年度と同様に中止としたが、ホームページを作成し、オンライン上で参加団体の取り組みを紹介した。

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
 維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
 停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和3年度からの変更点	アスベストを含む建築物の解体・改修等に係る届出事務が一部都から市へ移管されたことにより、業務の増加が見込まれ、またそれらに対する周知や指導が市に要求される。
-------------	--

7. 施策を進める上での課題

① 施策を進める上での課題	清瀬市全体の温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロにするため、市域全体計画である地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定を含め、市のみならず市民や民間事業所も含めた施策を推進していく必要がある。
① 課題に対する令和5年度以降の取組	国の温室効果ガス排出量削減計画や、東京都のゼロエミッション東京戦略を参考とし、2050年のゼロカーボンシティを目指すべく地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定する。また、それと並行し、市民への太陽光発電システムや蓄電池の補助等の施策の状況を検証しながら、市域全体に温室効果ガスの抑制意識の浸透を図り、市域の温室効果ガスの削減を進めていく。
② 施策を進める上での課題	新型コロナウイルスの感染症収束の見通しが付かない中、市民に対する環境保全への意識啓発を継続するため、従来とは異なる手法による啓発も並行して実施していく必要がある。
② 課題に対する令和5年度以降の取組	「きよせの環境・川まつり」は、課題等を整理したうえで必要な取組みを進めていく。同時に、環境保全活動の意識啓発についての方向性や実施方法について、検討を深めていく。